

## 沖縄県民の苦難に終止符を

知事選の争点は「平和と環境か、戦争と基地拡大か」

2014年11月8日

4年前、普天間飛行場の県外移設を公約に掲げて当選した仲井眞知事が、新につくる米海兵隊基地のために公約を破棄して県内辺野古湾埋め立てを承認しました。現知事の任期満了に伴う沖縄県知事選挙が10月30日に告示され、11月16日が投票日となっています。

新医協は沖縄県民の命と健康を守る立場から、基地のない平和な沖縄を取り戻す運動を一貫して支援してきました。ですから、このたびの知事選にあたって重大な関心を持ってこの選挙に臨みたいと思います。

そもそも沖縄は太平洋戦争で日本本土の防波堤とされ、日本で唯一地上戦を強いられ、19万人もの死者を出しました。その過酷な戦場体験が未だに少なからぬ県民の心身に後遺症を残していることは精神科の当会会員により明らかになっています。そればかりか戦後の強制土地収用で農地や住宅地を奪われ、今や国土面積の0.6%を占めるに過ぎない沖縄に74%の米軍基地が集中させられています。軍用機騒音や墜落事故、基地廃棄物による環境汚染が県民の生命や健康をむしばんでいます。また、米兵による犯罪や暴行などが日常生活を脅かし続けています。

一刻も早く基地のない平和な沖縄を取り戻す願いに反して、国と現職知事はジュゴンが遊ぶ辺野古湾を埋め立てて基地にする策動を加速しています。

辺野古周辺の豊かな自然環境は、美謝川河口のキャンプ・シュワブ沿岸に潟湖があり、陸域からの土砂の海域拡散を防いで清浄な海を保っています。また、河川が運ぶ養分はシュワブ沿岸の大浦湾で冬場には7メートルに達するマジリモクや、コモチハナガササングの広大な花畑を育み、絶滅危惧種ジュゴンの餌となる海草藻場を育ててくれます。これら自然の宝庫の川や河口と沿岸を、それも軍事基地の為に全て埋め立てることは環境破壊の面からも、許すことができません。

幸い、知事選に立候補表明した翁長雄志氏は沖縄への異常な米軍基地集中の是正を訴え、「基地は沖縄経済の最大の阻害要因になっている」と主張し、辺野古新基地に反対して選挙戦に臨んでいます。

我々新医協は、沖縄県内41市町村の全ての首長が辺野古新基地反対の「建白書」(2013年1月)に署名しているという、この事実こそ沖縄県民の民意があると考え、これを支持します。そして平和で環境豊かな沖縄の実現に向けて県民と共にこれからも歩み続けます。

新日本医師協会総会